

年 組 名前：

県内公立小学校の 25人学級導入状況

すでに25人以下 308 (28.0%)
25人学級 714 (65.0%)
教員の加配 77(7.0%)

※2025年度。学級数()内は%

「25人以下」学級 93%

小1～4 教員確保が課題

県内25年度

山梨県が公立小学校に導入を進める「25人学級」制度を2025年度に小学1～4年生に採用したのは91校・791学級で、学校としては全体の55%、学級では72%だったことが16日、県教委のまとめで分かった。残る学級も少子化などの影響で25人を下回っており、93%の学級が25人以下となった格好。一方、教員不足が全国的に課題となっていて、県教委は少人数教育の環境整備を進めるため、確保策に力を入れる。

〈宮川祐〉

県教委によると、25人学級・9学級のうち91校・791学級の導入状況を集計、公表するのは初めて。制度は25人以下の学級編成のほか、一定の基準を満たせば学級数を増やさずに担任以外の教員を追加配置する「アクティブクラス」を活用。いずれかを採用したのは全165校・109学級だった。

このうち1学級25人以下の編成は714学級(65.0%)で、アクティブクラスは77学級(7.0%)。308学級(28.0%)は既に児童数が25人以下の学級編成だった。

文科科学省初等中等教育局によると、法律で定める小学校の1学級の上限は35人。県は21年度、全国に先駆けて1年生に25人学級を導入してから段階的に拡大、本年度は6年生を加えて全学年が対象となった。

25人学級を巡っては、県教委の有識者会議が24年度にまとめた報告書で、少人数教育の効果として「児童とのコミュニケーションや指導時間の充実化」「学級担任の事務負担の軽減」などを挙げた。一方、学級数増加に対応した教員確保を課題として指摘。25年5月1日時点で小学校は19校で22人、中学校は18校で24人が不足していた。

県教委義務教育課によると、25人学級推進に伴う必要数に基づき教員を採用してきたが、近年は早期退職者が増加。意向調査や面談を通じて離職や人材流出の防止に取り組んでいる。教員確保に向けては「学生が受験しやすい環境整備を進める」とした。

県教委は今後、中学校での少人数教育の在り方を検討する委員会を立ち上げる方針。検証の基礎資料として、小学校での25人学級の導入状況をまとめた。

(2026年4月17日付 山梨日日新聞1面)

問1

山梨県が公立小学校に導入を進める「25人学級」制度の進捗状況が発表されました。93%の学級が25人以下となりましたが、課題もあります。その課題を教えてください。

.....

問2

「アクティブクラス」について説明してください。

.....

問3

県教委は少人数教育の効果について、どのように報告しましたか。

.....

.....